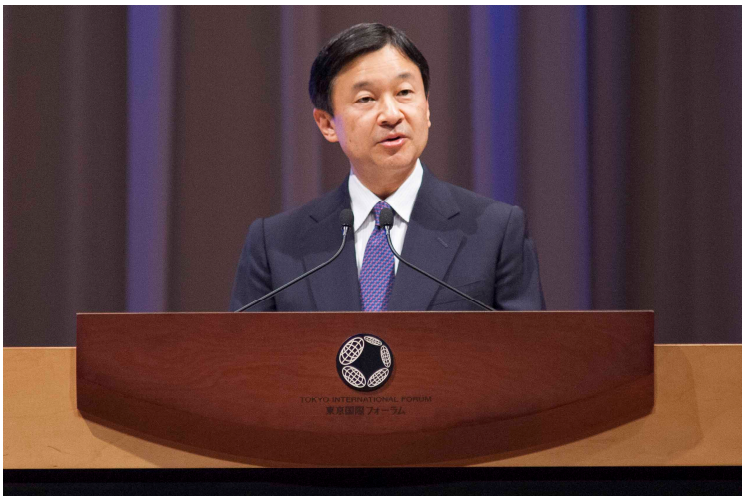
皇太子殿下お言葉

土木学会創立１００周年記念式典が，国内外から多くの関係者の参加の下に開催されることを，誠に喜ばしく思います。



皇太子殿下の御臨席を仰ぎ、お言葉を賜る。

土木学会は，大正３年に工学会から分離，独立し，土木工学を専門とする社団法人として創立されました。以来１００年，国民生活や経済活動を支える社会基盤施設の整備に，産学官の皆さんが協力して，土木工学を通じて貢献してこられました。この間，今日の豊かで安全・安心な社会を作るため，幾多の困難を乗り越えてこられた多くの方々の多大な努力に対し，心から敬意を表します。

歴史をたずねると，私たちの祖先が国をつくり上げる中で，土木技術が大きく貢献したことが分かります。日本においても，一例として，近世の「利根川の東遷」と呼ばれる治水事業が挙げられます。これは，徳川家康により始められ，東京湾に注いでいた利根川を順次東に導き，最終的には太平洋に至るまで川の流れを切り替えた事業です。この事業により，江戸が洪水から守られただけでなく，新田の開発や舟運路の確保などが実現し，江戸の発展の基礎が築かれたことは間違いありません。

平成２３年３月の東日本大震災から３年半余りがたちました。土木学会は，震災の発生直後から，学術調査団を被災地に派遣し，地震や津波による土木構造物の被災状況を調査されました。その調査結果を多くの提言として発表し，被災地の復旧・復興に貢献されていると聞いております。

現在，南海トラフ地震や首都直下地震など，大きな地震の発生が懸念されています。また，地球規模での環境問題や社会基盤施設の老朽化など，日々の生活にも関わる大事な問題もあります。これらの点からも，持続可能な社会の実現に向けて，土木工学に携わる関係者の皆さんの積極的な取組に期待します。

終わりに，創立１００周年に当たり，土木学会が土木工学を通じて，人々の豊かで安全・安心な暮らしのため，より一層貢献していかれることを願い，記念式典に寄せる言葉といたします。